

令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや (1F)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	令和7年12月16日	評価結果市町村受理日	令和8年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・食事は手作りでバラエティーに富んだ提供をしている。
- ・利用者さん同士仲が良く日中はリビングで過ごされている。
- ・町内会の夏祭りに参加し、飲食やさんさ踊り等で楽しめました。
- ・敬老会はスコープ三味線、忘年会は中川愛子社中、それぞれの皆様がいらしてくださり、とても楽しませておりました。
- ・個々の生活リズムを尊重し、安心安全な生活が送れるよう支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な緑地の公園や美術館などの文化施設、ショッピングモールなどの大型店舗、医療機関、福祉・介護事業所が集まる地域に位置し、周辺には児童公園や住宅があり、比較的静かな環境の中にある2ユニットのグループホームである。買い物や散歩に適した環境で、医療・福祉との連携も図りやすい立地である。事業所では、理念として掲げる「笑・輪・話」を大切に、利用者が毎日を笑顔で過ごせるよう、それぞれの意思を尊重した支援を心がけ、利用者の希望をどのように実現できるかを日々検討し、具体的なケアに反映している。食事面では、利用者の要望を献立に取り入れるとともに、季節感のある食材や彩りを工夫し、見た目も楽しめる食事づくりに取り組んでいる。食事は利用者と職員が同じ席でととり、家庭的で温かい時間を共有している。重度化や終末期には、訪問診療医や訪問看護師と密に連携し、家族とともに看取りを行いながら、利用者がその人らしい最期を迎えられるよう支援している。家庭的な環境の中で、無理のない穏やかな時間を過ごせるよう、これまでの経験をもとに日々の実践に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	今後の目標は、季節行事への参加と個々の思いに寄り添うを掲げ、ドライブ近所の散歩、地域行事参加、夏祭り、敬老会、忘年会等々楽しんでいただいている。外出、お墓参り、買い物など、個人の要望にもご家族の協力のもと希望に添えていると思う。	今年度より、グループホームの理念を「和・輪・話」から「笑・輪・話」へと改めた。「みんなで笑い、輪になって話す」日常を大切にし、利用者一人ひとりが安心して穏やかに暮らせる環境づくりを目指している。理念の実践に向けて、3か月ごとに活動目標を設定し、日々の支援内容を振り返りながら取り組みを継続している。これにより、利用者が笑顔で過ごし、仲間とのつながりを感じながら楽しく生活できるよう、理念に基づいた支援の充実を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方々との挨拶や、地域の行事への参加、毎月のボランティアさんによる絵本読み聞かせ等々交流は続いている。夏祭りに参加した時には、ご近所の方々から沢山声を掛けてくれ、いつもと違う表情が見られました。	事業所では、地域とのつながりを大切にし、町内会の夏祭りや防災活動(シェイクアウト訓練)、花壇の水遣りなどの地域行事に積極的に参加している。これらの活動を通じて、地域住民にグループホームの存在や取り組みを知ってもらうよう努めている。また、読み聞かせボランティアの受け入れや、事業所の広報紙「笑・輪・話 通信」を地域掲示板に掲示するなど、地域との交流機会を継続的に確保している。こうした取り組みにより地域住民との関係が深まり、認知症や介護に関する相談を受けることもあり、地域の身近な相談先としての役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で、民生委員さん、町内会長さん達からの質問に答えたり、情報提供されたりしている。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、利用者の状況報告をしているがもっと詳しく教えて欲しいとか、こういう時はこうすれば良い等、沢山の意見や情報をいただき、対応している。	運営推進会議には、町内会長、民生委員、市担当課職員、利用者家族が参加し、多様な立場から意見を得られる体制を整えている。年間の開催予定を事前に設定し、委員が参加しやすい環境づくりに努めている。会議では、事業所の取り組み状況や利用者の生活の様子を報告し、委員からは地域の動向や感染症対策に関する助言・提案を受け、運営の改善に活かしている。前回の外部評価後に作成した目標達成計画では、利用者の会議参加を進めることを掲げていたが、新型コロナウイルス対応に追われたため、実施には至らなかった。今後の課題として引き続き検討していくこととしている。	運営推進会議では、これまでの議題に加えてヒヤリハット事例も共有できるようになると、委員の皆さんから多様な視点での助言を得られ、より安心して過ごせる場づくりにつながっていくと思われま。こうした情報を丁寧に扱いながら話し合うことで、事業所の取り組みがより見えやすくなり、ケアの質の向上にもつながることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談しアドバイスをいただいている。	市の担当課職員が運営推進会議に参加しており、会議の場で情報共有や助言・指導を受けている。また、日常的にも電話やメールで相談し、必要に応じて担当課へ直接出向くなど、継続的な連携を図っている。こうした顔の見える関係づくりを通じて、事業所運営における行政との協力体制を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠していない。身体拘束もしていない。	事業所では「身体拘束を行わない」方針を掲げ、日々のケアにおいて利用者の尊厳を守る取り組みを進めている。一方で、無意識のうちに制約的な言葉がけが生じる場面もあるため、3か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催し、日常のケアを振り返りながら身体拘束と虐待防止の意識向上に努めている。また、言葉遣いの適切さを確認するための職員アンケートの実施や、スピーチロックに気づいた際にその場で声を掛け合う取り組みを行っている。さらに、継続的な勉強会を開催し、職員全体で知識と意識の共有を図ることで、身体拘束をしないケアの実践を強化している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を設け、法定研修に参加し、事業所内で虐待が起こらないよう、見過ごされないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1Fには成年後見制度を利用されている利用者はいないが(以前はいました。)それぞれで対応が違うようなのでもっと制度について学んでみたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には見学していただき、きちんと説明させていただき納得をしていただいでから入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には、ご家族に参加していただき理解していただいている。又、面会時には家族からの話を聞いたりしている。	利用者からの要望については、日常の関わりの中で職員がこまめに聞き取り、生活に反映できるよう努めている。家族に対しては、面会時に職員が同席して意見や要望を伺うほか、管理者が直接話を聞く機会を設けるなど、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。利用者からは食事内容や外出に関する希望が多く寄せられており、可能な範囲で要望を取り入れ、生活の満足度向上につなげている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングやカンファレンス等意見を交わしたり個別に日々必要な時に相談し管理者は繁栄に努めている。	事業所では、ほぼ毎月の全体ミーティングや毎月のカンファレンスを通じて、運営に関する職員の意見を幅広く聞き取る機会を設けている。日常的にも管理者が現場に入り、職員が意見を伝えやすい環境づくりに努めている。また、年1回の職員面談では、目標や達成状況の確認に加えて、運営に関する意見や提案を受け止める場として活用している。職員からは食事に関する提案や勤務シフトに関する意見が多く寄せられており、内容を検討したうえで可能な範囲で運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の体調、体力に応じて夜勤の有無、労働時間の調整を行い働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修(リモート含む)に参加している。報告は、ミーティングや資料等で全員が確認でき、それを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	訪問したり見学に来ていただいて意見交換している。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の情報と違う事が多くあるが、会話を多くのもち、不安や心配事がないか汲み取り、少しでも早く安心して生活できるようなケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前や入居後も家族の心配事等が話しやすいよう声かけをし心の内を引き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初めての場所で生活するにあたり、安心して生活できるよう、よく話を聞き、不安な気持ちを話してもらえそうな雰囲気づくりをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様個々の出来ること、出来ないことを、把握し、声掛けや、寄り添ったりとお互いに支え合っている。職員と一緒に掃除、洗濯干しやたたみ、下膳、茶碗拭き等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お墓参りや、友人と食事の希望など、それぞれの希望時には、ご家族に協力していただき、希望を叶えてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通院や、外出(食事やコンサート)など支援している。形態を持っている方は、自由に利用していた。	利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係を継続できるよう、外出時には家族とともに馴染みの店で食事をしたり、お墓参りを行うなど、個々の思いに沿った支援を行っている。過去には、利用者の近隣に住む知人が訪ねてくることもあり、地域との自然なつながりが保たれていた。また、民謡歌手のボランティア「愛子おばちゃん」や馴染みのお寿司屋さんとの関係が続くよう働きかけており、毎年の忘年会には参加してもらうなど、利用者が親しみのある人々と交流できる機会を大切にしている。こうした取り組みは、利用者の安心感や生活の楽しみにつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆でソファや、食席にてテレビを観たりしている。職員も一緒に会話を楽しんだり、レクリエーションしたり、作品作りをしたりして教え合ったりしながら楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出先で声をかけていただいたり、時には、タオル等を提供していただいたりしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話から、思いや意見を聞き出している。言葉にしにくい利用者は、表情や行動から把握し、希望に添えるようにしている。意向に添えない時は、説明し納得していただく。チャートに記録し、カンファレンスで共有している。	事業所全体では、言葉で意思を伝えることが難しい利用者が3名おり、職員は日々の関わりの中で表情や仕草、行動の変化を丁寧に観察し、思いや意向の把握に努めている。利用者からは食事に関する希望が多く寄せられており、可能な範囲で希望に沿った対応を行っている。また、意向に沿えなかった場合には、その理由や対応内容を記録し、職員間で共有することで、今後の支援に活かせるよう取り組んでいる。	
----	-----	---	---	---	--

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今まで使っていたものを使用いただいている。位牌を持って来ている方もいる。携帯電話を使用している方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時々居室で過ごされる方、皆と一緒に過ごしたい方などそれぞれの過ごしたい方があり強制しない。表情やバイタルチェック等で体調管理し体調不良時にはすぐ医療と連携し対応している。チャートや申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の記録から、課題とケアのあり方をカンファレンスで話し合い、又、訪問看護、Dr、家族の思い等を伺いケアプランに反映している。	介護計画の作成と見直しについては、日々のモニタリングを職員全員で行い、その情報を基に3か月ごとにケアマネジャーを中心としたケアカンファレンスを開催して検討している。職員の観察や気づきを共有し計画に反映することで、利用者の状態に応じた支援の継続を図っている。また、介護度が高くなった場合には、主治医や訪問看護師、家族の意見も取り入れ、多職種の視点を踏まえて介護計画を見直し、適切なケアが継続できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケア内容を記録に残している。例として、人工肛門の方で、パウチに不具合が生じ訪問看護、Drと情報を得、すぐに受診し対処方法を変えた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問看護を利用し、急変などの対応をしている。訪問歯科、訪問美容など利用し適宜、対応している。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭りに参加したり、定期的に絵本読み聞かせや、演舞などで楽しみながら生活されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医の利用はご家族のご協力が続けている。通院がなくなってきた方については、家族と相談し訪問診療に切り替え安心して医療を受けられるよう支援している。	事業所全体では7名の利用者が従前からのかかりつけ医へ継続して通院しており、家族が同行することを基本としている。家族の同行が難しい場合には職員が付き添い、受診内容や医師からの指示は家族と共有している。通院が困難になった利用者については、訪問診療へ円滑に移行できており、継続して適切な医療を受けられる体制が整っている。また、週1回の訪問看護により、利用者の健康状態を定期的に観察し、必要な支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護を利用し日々の気持ちを報告している。Drへの情報共有もしている。急変時は、訪問看護からアドバイスを受けてたり訪問していただき処置していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携し早めの退院につとめている。緊急時対応病院として市立病院と連携したため家族もスタッフも安心している。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の場合には家族、医療と話し合い、出来ること、出来ないことをきちんと伝え本人が安らかな終末を迎えられるよう支援している。施設での対応が難しい場合には、他施設又は、医療機関と連携し、移動する事も可能になった。	入居時には、重度化した場合の対応や看取りに関する利用者・家族の意向を確認し、共有している。看取り期には、利用者ができる限り穏やかに過ごせるよう、訪問医師、訪問看護師、家族と繰り返し話し合いを行い、最期までその人らしい時間を支えられるよう取り組んでいる。今年度は、家族が泊まり込みで看取りに関わる場面もあり、家族とともに最期の時間を大切にできた一方で、管理者は運営面で改善すべき課題も見出されたとしている。	看取りに際しての家族の関わり方や、職員の心理的負担への配慮について、利用者・家族の意向と事業所の方針をより円滑に共有できるよう、ガイドライン等の整備を検討していくことにより、今後の支援体制がさらに充実していくと考えられます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時等の場合には、訪問看護ステーションに連絡し指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行っている。大家さん、近所の方に声掛けし、参加していただいている。	年2回の避難訓練を定期的実施しており、今年度は設備会社と連携した通報訓練にも取り組んだ。通報時の手順が職員全員に共有されるよう、通報マニュアルを掲示し、緊急時の対応力向上を図っている。大家や近隣住民に見守りの役割を依頼し、訓練に参加してもらうことで、地域ぐるみの防災意識の向上につなげている。また、前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を策定し、薄暮時に夜間を想定した避難訓練を実施した。これにより、昼間の訓練では把握できなかった課題を確認することができ、現在その解決策について検討を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに対しそれぞれに安心できる声かけを行っている。入浴時は同姓を希望される場合はすぐに対応している。レクリエーションなど皆で行う場合は理解できずにいる方もスタッフがそばに寄り添ったりしながら、不安にならないように対応している。	事業所では「利用者の権利を擁護し、礼節と尊敬をもって接すること」を運営方針として掲げている。集団での活動時にも、職員は利用者一人ひとりの様子に目を配り、安心して参加できるよう、理解しやすい声かけを心がけている。また、尊厳を損なわずプライバシーを確保するため、年1回勉強会を実施し、利用者の意思を優先する支援方法について職員間で検討を重ねている。こうした取り組みを通じて、個々の利用者の尊重とプライバシー確保を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り、自己決定していただいている。何をすることも全員に声をかけ、言葉で表現できない方は、表情や動作などで判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	テレビを観たい人、ラジオを聴きたい人、寝たい人など、水補や食事の時以外は、それぞれ過ごしたいようにされている。安全確保している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服薬は本人が選んでいる。カットもその人に合ったヘアスタイルにしている。選べない方については、スタッフが決めている。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを、メニューに入れたり、おやつを提供したりしている。テーブル拭き、下膳、茶碗拭きなど、利用者と一緒にやっている。	献立は、利用者と一緒に注文チラシを見ながら希望を聞き取り、食べたいものを反映して立てている。調理は職員が担当しているが、テーブル拭きや下膳、食器拭きなど、可能な範囲の作業は利用者も参加し、食事づくりの一部を担っている。誕生日には本人の希望を聞き、好みに合わせたメニューを提供している。正月には多くの利用者から希望のあった餅を、大きさや見守りに配慮しながら安全に提供した。ミキサー食の利用者は事業所全体で6名おり、通常食と同じ食材を使用して調理し、できる限り同じ食事を楽しめるよう工夫している。また、職員も利用者と同席し同じ食事をとることで、食事の様子を観察しながら、安心して楽しく過ごせる雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	肉、魚、野菜とバランスを考え提供している。水分は食事の他に10時、15時に提供しチェックしている。ミキサー食、トロミ食を提供している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床後、食後は口腔ケアを促している。年1回の歯科検診を行っている。個人的に訪問診療を受けている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	寝たきりの方以外は、トイレでの排泄を心がけている。排泄処理がうまくいかない方や、失禁の多い方などは、その都度声掛けや、できない部分の支援をしている。	寝たきりの利用者を除き、トイレで排泄が可能な利用者については、個々の排泄パターンを把握し、リハビリパンツやパッドが汚れる前に適切なタイミングでトイレ誘導を行っている。誘導時の声かけは羞恥心に配慮し、安心して応じられるよう丁寧に行っている。また、トイレまでの動線には手すりを設置し、一人でも安全に移動できる環境を整えている。こうした取り組みにより、利用者の尊厳を守りながら、可能な限り自立した排泄が継続できるよう支援している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のラジオ体操、野菜の摂取、水分の摂取などで便秘にならないよう支援している。排便チェック表を利用し把握している。訪問看護時、グル音のチェックをしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	時間は午後になってしまうが希望を聞きながら無理強いしないようにしている。1対1の時間でもあるので会話を楽しむ時間にもなっている。	入浴は週2、3回、午後の時間帯としている。多くの利用者は見守りや一部介助で入浴を楽しんでいるが、2名の職員による介助が必要な利用者や、清拭で対応している利用者もいる。利用者が入浴を楽しめるよう、柚子湯や各種温泉タイプの入浴剤を取り入れるなど、季節感や変化を感じる工夫を行っている。入浴を拒否する利用者はおらず、入浴時の職員とのコミュニケーションの中で、これまで聞かれなかった話題が出ることもあり、その内容を記録し日々の支援に活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室で昼寝をする方、ソファでウトウトする方ゆっくり休んでいる方などそれぞれがご自分に合った休み方をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書をファイルし、すぐ見られるようにしている。副作用などは、訪問薬剤師から説明を受け不明なことは相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯干し、たたみ、掃除(モップ掛け)など自分の役割と感じ積極的に行ってくれている。ブラックコーヒーが好きな方には提供している。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族と近所を散歩したり、家族の送迎で友人とランチ、コンサートに出掛けたりできるよう支援した。	桜の季節には、近くの公園や美術館への散歩、小岩井農場へのドライブなど、季節を感じられる外出を実施している。職員とショッピングモールに出かけ、買い物を楽しんだり、フードコートで好みの食事を選ぶなど、利用者の希望に応じた外出の機会も設けている。近隣の衣料品店へは車椅子で買い物に出かけることもあり、必要に応じて個別の外出支援を行っている。また、家族の送迎で友人とコンサートに出かける利用者や、家族が近くに住む利用者が家族と散歩に出かける機会もあり、家族や友人とのつながりを大切にした支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は、ほとんどの方は困難であるが金額は少なくとも、財布を持つことで安心する方については持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている方もいる。施設の電話は自由に使う事ができる。又、少し不穏になった時には、家族の声を聞いてもらったり、話してもらうことで落ち着く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温湿度計にて確認している。強い日差しの中には、カーテンを閉め落ち着いて過ごせるよう工夫している。季節のお花、壁画などで季節を感じるよう工夫をしている。	食堂兼リビングホールには食卓テーブル、ソファ、テレビを配置し、ゆったりと過ごせる明るい空間となっている。現在は、利用者と共に制作した「みずきだんご」が飾られ、季節感を感じられる工夫がされている。また、季節行事に合わせた飾りも利用者と一緒に制作しており、共用空間に彩りを添えている。リビングでは、週刊誌や新聞、広告チラシに目を通しながら思い思いに過ごすなど、利用者がくつろげる居心地のよい環境づくりに努めている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファに座り会話をしたり、居眠りしたり、本棚の所でゆっくり本を読んだり、食席で新聞やチラシを見たり、居室でテレビを観たり、ラジオを聞いたりなどそれぞれ思いの居場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具や、寝具、テレビ、箸、コップ等々持参し居心地の良い居室になっている。	居室にはベッド、クローゼット、棚、蓄熱暖房機、エアコンを備えており、室温が適切に保たれる快適な環境となっている。利用者は使い慣れた私物を持ち込み、自分の好みに合わせて配置することで、落ち着いて過ごせる居室づくりができています。また、個人名の表示を希望しない利用者には、その意向に沿った対応を行っている。利用者は居室でテレビやラジオを楽しんだり、塗り絵や読書をしたりと、自分のペースで過ごすことができ、安心してくつろげる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの同線に手すりを設けひとりでも安全にトイレまで行けるようにしている。歩行器、杖を使用している方々もいる。居室、トイレ、洗面所等、迷ってしまう方には職員が声掛けや、誘導、見守りを行い出来ることをやってもらっている。		